

国際交流センター ニュースレター



中国医薬大学短期交流研修 ～ 台湾からの研修生 ～

1月27日（金）～2月5日（日）に中国医薬大学（台湾）から10名の学生および5名の引率教職員が台湾から短期交流研修に参加し、北見工業大学を訪問した。日本が初めてで期待にあふれ興奮した学生達は、講義にて日本語、日本文化およびバイオ環境やSVBL（サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー）について学び、研究室を見学した。研修旅行中に様々な施設見学や交流会も体験した。本センター主催のインターナショナルCアワーに参加し、「巻き寿司づくり」に挑戦しながら、本学の留学生、日本人学生および市民との交流に盛り上がった。また、雪を一度も体験したことない台湾の学生は凍結した網走湖で「北の新大陸発見！

あったか網走」行事に参加し、冬季限定のさまざまなイベントを体験することができた。特に氷のすべり台の遊びは大人気であった。そして、北海道の自然や大切なオホーツク海について学ぶために網走の流氷クルーズ（オーロラ号）に乗船し、流氷を見ることができ、硫黄山で硫黄の独特な匂いと景色を楽しむこともできた。最終日の送別会で北見の焼肉を食べてから、中国医薬大学からの訪問客は札幌へと出発した。

短期交流研修によって楽しい時間を過ごしながら、北海道や北見の魅力を感じることができた学生がたくさんいたことは大変喜ばしい。このような交流プログラムが北見工業大学への留学に繋がることも期待される。



目次：

中国医薬大学短期交流研修	1
語学研修 in Deutschland（ドイツ）	2
インターナショナルCアワー	4
短期留学生修了式	4
留学生研修旅行 一紋別市へ	5
退職のご挨拶	4,5
留学生交流のタベ	6
今後のスケジュール	6



語学研修 in Deutschland (ドイツ)



3年 荒尾 健太
社会環境工学科

3週間のドイツ語学研修は、物事に対する価値観や、今後の生き方に対してとても大きな影響を与えてくれました。ドイツでは、寮での生活で、身の回りのことは、全部自分でしなければいけませんでした。ドイツでの生活は、すべてが新鮮で、私に衝撃を与えました。

例えば、スーパーに買い物に行った時に、ビールが水より安いこと、お菓子一袋がとても大きいことなど驚きの連続で、スーパーに行くだけでもとても楽しかったです。また、レストランでの食事も、日本とは全く違うものでした。まず、量がものすごく多いことです。とても、一人では食べ

られそうにない量のものばかりでした。そして、レストランのお会計などの際には、チップが必要なことです。チップをいくらわたせばいいのかわからなくて、レストランでの食事の際には、チップの計算で一番困りました。

ドイツでの生活は、本当にこれまでの生活とは全く違っていて、3週間という短い期間だったけど、毎日が内容の濃い充実したものでした。このドイツでの生活で学んだことは、文化の違いや、人とのコミュニケーションの仕方など、語学以外のこともたくさん学びました。

~ ~ ~ ~ ~

1年 太田 有香
機械社会環境系

私は今まで一度も海外に行った事がありませんでした。だから大学生になって、今まで一度も行った事がなかった海外に行って自分の視野を広げたいと思い、この語学研修に参加しました。この語学研修はドイツの他にもカナダや中国がありました。私は大学で環境についての研究がしたいと思っていたので、環境問題に積極的に取り組んでいるドイツに行く事にしました。行く前は初めての海外という事も色々不安な事が多かったのですが、行ってみるとドイツの大学には自分と同じように日本から語学研修に来ている他の大学の学生もいて安心しました。実際、3週間滞在して

買い物やレストランで食事をする事などを通して、語学研修は海外に行って実践的に語学を学だけではなく、その国の文化や暮らしている人々の価値観の違いに直接触れる事で、その違いを理解する良い機会になったと思います。このドイツにいた3週間は人生の中ではとても短い時間だったかもしれませんが、でも、この3週間は自分の人生の中では日本にいたら絶対経験のできない、とても貴重な体験ができた時間であって、今後の私の将来の選択にきっと役立つものになったと思います。また、このような海外に行って何かを学ぶという機会があったら、ぜひ参加したいと思います。

~ ~ ~ ~ ~

1年 杉西 幸恵
バイオ環境マテリアル

ドイツに行ってもう半年近くたちました。しかし思い出せばドイツでの思い出は鮮明に思い出せます。語学というものは授業としてやるものではないと本当に実感しました。確かに文法を覚えたりすることは大切なことだと思います。しかし実際に使い通じることの喜びを得ることでもっと会話がしたいと思うことが語学を学ぶ上で重要なことだと思います。日本語はたった2億2000万人としか会話ができません。しかし英語を覚えれば世界中の人と話をすることができます。ドイツでも聞いた方がいいが答えられたことがわからなかったら意味ないからということで自信のないときは英語を使っていました。英語の素晴らしさを身をもって実感しました。ドイツにいたこの3

週間で私がどれほどドイツ語が上達具合はそんなに誇れるものではないかもしれませんが。しかしドイツでした経験は誇りたいものばかりです。人の温かみに触れたこと、言葉が通じることのうれしさ、たくさんのお会い、通じなくてもコミュニケーションが取れるという素晴らしさ、とても言い尽くせません。またヨーロッパというみんなが憧れるところに行けたこともうれしいことです。手軽に行けないうようなところだからこそとても楽しんでよかったです。いつかまた行ってみたいですね。そのときはもっとドイツ語や英語で知らない人にも会話ができるようになっておきたいですね。

Nicht vergessen, bitte !

1年 高橋 邦英
機械社会環境系

私はドイツ語学研修を通じて、自分自身の語学能力の低さを痛感しました。現地へ行くまでは最悪英語で伝えれば何とかなるだろうと思ってました。ですが店先で会話をしたりするのも、授業でどれだけやっても実際使おうとなると言葉が出てきません。正直、英語ですら文章にすることが大変でした。やはり公用語以外を使っていないというのは他の言語の慣れが全くないので、いざ使おうとしても無理があるのは当然でした。

それと比べて欧米は様々な国の人々が行き来しているのでイタリアやフランスといった国の言葉を聞くこともできます。それだけ他国の人が来ているという事は、言語に不自由していないという事だと思いま

した。日本では学校くらいでしか英語で話す機会がありません。そんな数回の練習だけで、現地で話せるわけがありません。

ドイツは日本のように地震がないために古い建物が数多くあり、見ているだけでも楽しめるようなところがとても多くありました。ですが、文字が読めない、何を言っているのかわからない、といった感じで100%満喫できるものが、50%ほどしか満喫できていないように感じました。これが少しでも理解できれば楽しみがどれだけ増えたことか、私は研修中に何度も思いました。ですから今後独学で勉強を行い、自分のスキルを高めて1人で海外の旅行ができるよう努力したいと思います。



~~~~~

3年 竹田 誠也  
社会環境工学科

研修中の生活は、平日の午前中にドイツ語の授業を受け、午後からは街を観光したり、フライブルク大学が主催するレクリエーションプログラムに参加したりしました。週末には、フランスやスイスへの日帰り旅行に行ったりしました。

ドイツ語の授業は、1クラス15名程度で生徒は全員、日本人でした。授業は基本的にドイツ語で行われ、先生が問題を積極的にあててきたり、文章をたくさん読んだりしたので、日本で受けた講義よりも、ドイツ語が身につけやすかったです。

フライブルクの町並みは建物の色や形に統一感があり、ヨーロッパらしい感じがし

て、とてもきれいでした。また、街には小川が流れていて、そこで子供たちが遊んだりしていて、とてもいい雰囲気でした。フライブルクは、平日でもたくさんの人が街を出歩いていて、活気にあふれていました。

私は今回の研修中に、体調を崩してしまい、ドイツの病院で診察を受けるという貴重な体験もしました。他にも、たくさんの人と交流したり、ドイツ料理をたくさん食べたり、普段とは違う環境の中で、いろいろな体験をすることができました。初めての海外で不安もありましたが、とても充実した研修となり、いい思い出になりました。



~~~~~

3年 福西 康平
マテリアル工学科

私がドイツへの語学研修に参加した理由は、元々ヨーロッパの文化や生活に興味があり、何か新しい刺激が欲しかったためでした。そして、私は今までに海外に行ったことがなく、実際にドイツでの生活は目新しいことばかりで、最初は不安と心配ばかりでした。フランクフルトの空港で初めて1人で買い物した時のドキドキは今でも忘れられません。しかし、拙い自分の英語やドイツ語でも意外に通じることを知って不安と心配は一気に無くなり、異文化への好奇心に心躍りました。それからのドイツでの生活は本当に充実したものとなりました。そして、一か月という語学研修期間はあっという間に過ぎました。その中で様々

な経験をして、様々な刺激を受けました。特に現地の人と会話している時に、自分の伝えたいことが自分の語学力では伝えられない悔しさは一番の経験になりました。その経験によって、もっと語学力をつけてもっとコミュニケーションを取りたい、という気持ちが強くなり、語学力の重要性を身にしみて感じました。今は長期間の留学も考えています。また、フライブルク大学での語学研修には、様々な日本の大学から参加してくるため、日本人との繋がりもできます。その点で、海外が初めての人や、語学力に自信がない人も安心して参加できます。海外に興味がある人、日常生活に少し飽きて刺激が欲しい人は是非参加してほしい。後悔はしませんよ！



インターナショナルCアワー



23年度最後のCアワーが1月31日（火）に行われた。今回のテーマは「巻き寿司」で、寿司の起源や種類、作り方について留学生によりよく理解してもらおうと、国際交流推進サークルOFICの日本人学生がプレゼンテーションを行った。続いて、市内の回転すし屋でアルバイトをしている学生、吉田雄太、が細巻きの実演も行った。1本を30秒で巻くという軽やかな手さばきに、留学生たちは大変感動した。その後留学生は「巻き寿司づくり」に挑戦するため、長い行列を作った。出来立ての巻き寿司を皆で美味しく食べて、楽しんだ。



短期留学生修了式

2月9日（木）、3月をもって帰国する短期留学生8名の修了式を行った。出席者は修了生8名全員と、高橋センター長、許斐准教授、荒谷講師、鈴木講師、村井副課長、白鳥主任、非常勤職員の二股さん、そして日本語の非常勤の尾山先生の16名。高橋センター長より一人一人に修了証書が授与され、センター長の告辞、教職員からの祝辞に続いて学生一人一人が答辞を述べ、感動的な修了式になった。最後は今までの思い出たくさんのスライドショーが上映され、修了式は幕を閉じた。

国際交流センターのスタッフ全員、心から皆さんの成功を祈っている。そして、いつかまた再び北見で会えることを願って！



退職のご挨拶 荒谷 陽子 先生



あっというまの8年間・・・輝く瞳の留学生に励まされ、やる気あふれる日本人学生にパワーをもらい、地域の暖かい方々に支えられ、有能な同僚に助けられ、優しい上司に恵まれて、本当に楽しく働くことができました。
ひとつひとつの出会い、ひとつひとつの思い出をこれからも大切にしていきたいです。
ありがとうございました。

留学生研修旅行 — 紋別市へ

2月19日(日)～20日(月)に25名の留学生が毎年開催される留学生研修旅行に参加し、紋別市を訪問した。19日は紋別市民会館で開かれた第27回北方圏国際シンポジウム「オホーツク海と流氷」の開会式に出席し、医療工学専攻D1年の曹嬴さんが留学生の代表として挨拶した。20日の午前中は紋別市文化会館で開催された学術開会式および特別講演に出席し、午後は市内施設見学に出かけた。施設見学では、流氷科学センターおよび氷海展望塔オホーツクタワーで流氷について学び、マイ

ナス20度の厳寒体験室や海の生物の展示を体験・見学し、とっかりセンターでアザラシとふれあい体験もできた。今年も流氷砕氷船「ガリニコ号II」に乗船し、去年とは違って流氷も見ることができた。

このような研修旅行において留学生は楽しい時間を過ごしなが、オホーツク地方の自然や暮らし、そして大切なオホーツク海について学びを深めることができた。



退職のご挨拶 村井 信夫 副課長

留学生のみなさん、こんにちは。

このたび3月末で定年退職することとなりました。

私が最初に国際交流関係を担当したのは、初代の留学生係長として1997年4月から2000年3月までの3年間でした。当時の留学生数は、27～33人でしたので、全員の名前はもちろん、色々なことも判っていました。また、研修旅行などに全員が参加してもバス1台で間に合うような状況でした。

二度目は2009年1月から現在までの3

年3月となっております。その間、留学生数はついに100人をを超えるまでになっており、今更ながらに国際交流センターの充実・発展に驚くとともに、微力ながらお手伝いできたのを誇りに感じております。

4月以降は、再雇用として学生支援課で生活支援を担当しますので、姿をみかけましたら気軽に声をかけてください。永い間お世話になりました。また、たくさんのお会いと楽しい思い出に感謝！！



留学生交流の夕べ

本学アトリウムで国際交流センター最大の行事である「留学生交流の夕べ」が開催された。学内外から約90名が集まって、留学生の卒業・修了を祝った。23年度の卒業・修了生は以下の11名。

イベントは鮎田学長の挨拶に始まり、修了生を代表して寒冷地・環境・エネルギー工学専攻の博士後期課程を修了したMohamad Firdaus Bin Basrawi（モハマド フィルダウス ピン バスライ）さんによるスピーチ、引き続き鮎田学長による修了生の紹介と記念品の贈呈が行われた。

その後のパーティでは、修了生のそれぞれの思い出がスライドショーで紹介された。続いて、留学生有志によるアトラクションが始まった。留学生による「未来へ」の合唱、留学生の白玉廷さんと刘俊俏さんによる歌、日本人学生2名によるパフォーマンス、市民の方によるピアノ演奏が披露されて、会場はとても和やかな雰囲気となった。最後は今年度をもって退職する荒谷先生および村井副課長にまつわるエピソードを写真で追ったスライドショーと花束贈呈で、23年度最後のイベントは幕を閉じた。

♪卒業・修了おめでとう♪

工学部卒業

Arif Hazwan Bin Ab Wahab

Mohamad Fadil Bin Ismail

李 奥

孙 守奇

张 驰

耿 迪

庚 金涛

李 舜瑶

大学院博士前期課程修了

張 旭

大学院博士後期課程修了

Okedu Kenneth L.

Mohamad Firdaus Bin Basrawi



今後の予定

- | | |
|----------|-------------------|
| 4/9 (月) | チューターガイダンス (短期) |
| 4/9 (月) | オリエンテーション (短期留学生) |
| 4/12 (木) | チューターガイダンス (正規) |
| 4/12 (木) | オリエンテーション (正規留学生) |
| 4/19 (木) | 語学研修説明会 |
| 4/27 (金) | インターナショナルCアワー |
| 5/29 (火) | 留学生歓迎会 |

国際交流センターニュース2月・3月号

Vol. 87 2012年4月発行

発行所:北見工業大学国際交流センター

〒090-8507北見市公園町165

TEL 0157-26-9370 FAX 0157-26-9373